

# 社会人の学び始めの動機づけが 学習エンゲージメント・学習継続期間に与える影響

○佐藤裕子・今城志保・山田香(非会員)  
(リクルートマネジメントソリューションズ 組織行動研究所)

成人学習の研究では、学習者が主体的に学習に取り組むのに必要な3要素のひとつに動機づけがあげられ、プロセスの中で重要な役割を果たすとされている。そこで今回は、社会人の学び始めの動機づけに着目し、学習への主体的な取り組みや学習継続への影響を検討した。

社会人の主体的な学びの動機づけは、そのこと自体に興味や楽しさを感じることで、将来の成功や目の前の問題解決に役立てようとするのが同程度であること、いずれも主体的な学習態度につながることで、前者は学習継続にポジティブな影響を与えることを確認した。

## 目的

- 初職で就いた会社や仕事のまま定年まで働くことが当たり前でなくなり、一方で企業の人材育成力が低下傾向にある今日、社会人が企業や国に頼らず、自ら主体となって学びに取り組むことの重要性は益々高まっている。
- しかし「きっかけがつかめない」「学びたいことが見つからない」などから学び始めることができなかつたり、「ほかに熱中するものができた」「環境が変わった」などにより学習の継続が難しかったりするケースが少なくない。
- 社会人の学びには、仕事に関するものもあれば生活に関するものもあり、学び始める理由もさまざまであるが、成人学習の研究では、学習者が主体的に学習に取り組むのに必要な3要素のひとつに動機づけがあげられ、プロセスの中で重要な役割を果たすとされている(Garrison, 1997)。
- Ryan & Deci (2002)は、動機づけを自己決定性の程度によって、内発的動機づけと外発的動機づけの間を細分化した。学校教育分野では、これらを用いた多くの研究があり、例えば西村ら(2011)では、教育的に最も望ましいとされる「内的調整」より「同一化調整」のほうが長期的な学業成績などポジティブな効果につながると報告されている。一方、社会人については、「内的調整」と「同一化的調整」が学習プロセスに与える影響について、あまり検討がない。
- また、社会人の学び始めの動機づけが、学習領域によってどのように異なるかについても、詳細な検討が少ない。
- そこで本研究では、2つの検討を行った。  
検討1 社会人の自発的な学習において、学び始めの動機づけとしての「内的調整」「同一化的調整」が、主体的な学習への取り組み態度である「学習エンゲージメント」(櫻井, 2020)と学習の持続的な継続を示す「学習継続期間」にどのように影響するか。  
検討2 学習領域ごとに、動機づけの「内的調整」「同一化的調整」に差があるか。

## 方法

- 正社員541名に対するオンライン調査  
-実施時期: 2024年1月  
-調査対象: 従業員300名以上の企業で働く23~59歳(平均40.6歳)  
男性74.1%, 管理職26.1%
- 分析に用いた変数  
-動機づけ:  
最初にそのことに関心をもったときの気持ちについて、西村ら(2011)を参考に6項目6件法で測定。「面白そう」「ワクワクした」など2項目による「内的調整」( $r=.65$ )と「抱えている問題の解決に役立ちそうだと感じた」など4項目による「同一化的調整」( $\alpha=.77$ )を尺度化  
-学習エンゲージメント:  
「熱中して取り組んでいる」など6項目6件法を尺度化( $\alpha=.88$ )  
-学習継続期間:  
「1. 3か月未満」「2. 3か月以上6か月未満」「3. 6か月以上9か月未満」「4. 9か月以上」の単一選択  
-学習領域:  
「ビジネス」「IT」「語学」「投資」「生活・文化」「スポーツ」ほかの7領域から単一選択

## 結果

- 検討1
- 使用する変数の相関係数はTable1のとおりだった。
  - 学習エンゲージメントと学習継続期間を目的変数、内的調整と同一化調整を説明変数とする共分散構造分析(Figure1)を実施したところ、モデルは適合し、「内的調整」と「同一化的調整」はいずれも0.1%水準で学習エンゲージメントに有意な影響を与えた。
  - 学習継続期間に対しては、「内的調整」は1%水準で有意な影響が見られたが、「同一化的調整」では影響がみられなかった。

Table1 変数間の相関係数

|            | 内的調整     | 同一化的調整   | 学習エンゲージメント | 学習継続期間 |
|------------|----------|----------|------------|--------|
| 内的調整       | -        |          |            |        |
| 同一化的調整     | 0.33 *** | -        |            |        |
| 学習エンゲージメント | 0.54 *** | 0.40 *** | -          |        |
| 学習継続期間     | 0.12     | 0.05     | 0.12       | -      |

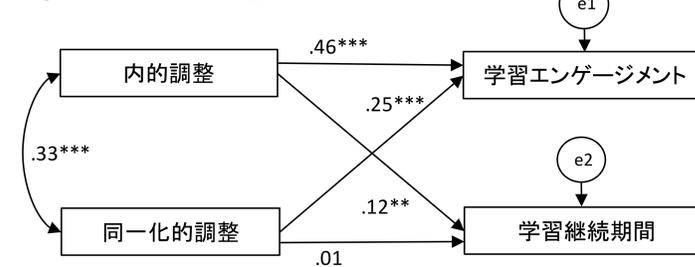
数値はピアソンのr \*\*\* p<.0001

- 検討2
- 7つの学習領域ごとに、「内的調整」と「同一化的調整」の値のt検定を実施したところ、「ビジネス」は「内的調整」より「同一化的調整」が、「投資」「生活・文化」「スポーツ」は「同一化的調整」より「内的調整」が、有意に高い結果となった(Table2)。

Table2 学習領域ごとの2つの動機づけの平均値

|       | n   | 内的調整 | 同一化的調整 | 対応のあるt検定 |
|-------|-----|------|--------|----------|
| ビジネス  | 196 | 3.44 | 3.79   | ***      |
| IT    | 105 | 3.49 | 3.66   |          |
| 語学    | 89  | 3.78 | 3.69   |          |
| 投資    | 49  | 3.86 | 3.47   | **       |
| 生活・文化 | 52  | 3.88 | 3.33   | **       |
| スポーツ  | 23  | 4.11 | 3.30   | ***      |
| その他   | 27  | 3.72 | 3.59   |          |
| 合計    | 541 | 3.63 | 3.64   |          |

Figure1 共分散構造分析の結果



数値は標準化係数, 相関係数  
\*\*\* p<.0001, \*\* p<.001

$\chi^2=2.37$ ,  $df=1$ ,  $p=.12$   
GFI=1.00, AGFI=.98, CFI=1.00, RMSEA=.05

## 考察

- 社会人の主体的な学びの動機づけは、そのこと自体に興味や楽しさを感じることで、将来の成功や目の前の問題解決に役立てようとするもののいずれもが、主体的な学習態度につながる。また、前者は学習継続期間にもポジティブな影響を与える。
- ならば、何を学べば将来の役に立つかわからず学び始められない場合には、面白そうという好奇心に従い最初の一步を踏み出すことも有効だと考えられるだろう。
- 「同一化的調整」による目的や価値の実現のための学びは継続につながらないという傾向は、例えば「ビジネス」領域の資格取得などは短期間に集中して目的達成するほうが望ましいことなどが影響していると考えられる。
- 今後は、2つの動機づけと学習成果の関係についてもさらに検討を進めたい。

## 参考文献

- Garrison, D. R. (1997). Self-directed learning: Toward a comprehensive model. *Adult education quarterly*, 48(1), 18-33.
- 西村多久磨, 河村茂雄, & 櫻井茂男. (2011). 自律的な学習動機づけとメタ認知の方略が学業成績を予測するプロセス-内発的な学習動機づけは学業成績を予測することができるのか?. *教育心理学研究*, 59(1), 77-87.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2002). Overview of self-determination theory: An organismic dialectical perspective. *Handbook of self-determination research*, 2(3-33), 36.
- 櫻井茂男. (2020). 学びの「エンゲージメント」: 主体的に学習に取り組む態度の評価と育て方. *教育図書*